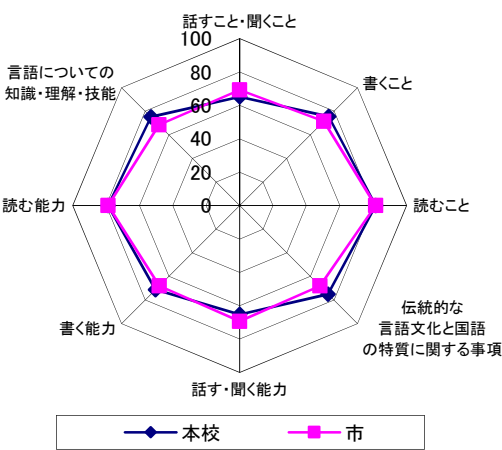


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.2	69.3	73.4
	書くこと	75.5	71.3	74.6
	読むこと	81.5	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	65.2	69.3	73.4
	書く能力	71.4	68.1	71.7
	読む能力	78.8	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	75.2	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

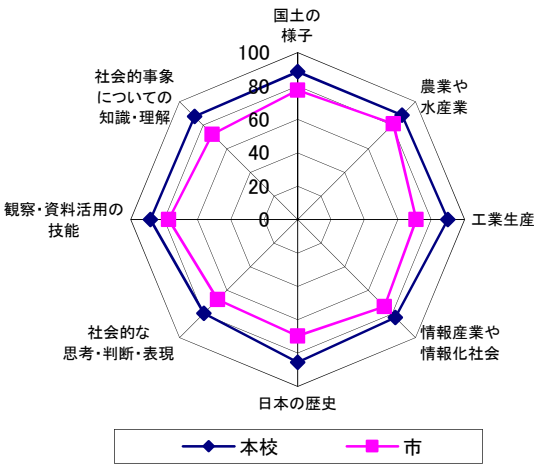
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いにおける司会者の役割は、よく理解している。●市の平均正答率より、低い。話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞き取ることに課題がある。 ●話の内容を、短い言葉でまとめ、条件に合わせて答えることが不十分である。	・集中して聞く活動を取り入れ、ねらいの応じた聞き方ができるようにしていく。 ・自分の言葉で聞き取ったことをまとめる活動を取り入れ、図る。
書くこと	○市の平均正答率より、高い。自分の意見を明らかにして文章を書くことは、よくできている。 ●指定された長さで、条件に合った文章を書くことに、課題が見られる。	・複数の条件を勘案した、文章作成の学習を取り入れ、日頃から書くことに慣れるようにしていく。
読むこと	○市の平均正答率と同じである。 ●物語文で登場人物の心情を読み取ったり、説明文で文章内容を的確に読み取ったりすることに課題がある。	・登場人物の心情は、登場人物の行動や会話、情景描写から捉えることができることを、読み取りを通して指導していく。 ・説明文において段落相互の関係を読み取る活動を取り入れたり、文章の指していることを文章中の別の言葉で言い換える活動を取り入れたりして、指導の充実を図っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きについては、よくできている。ただし、語句によっては文中の意味から考えられないものがあつた。 ●敬語の使い方(尊敬語、謙譲語)についての理解が不十分で、適切に使うことができていない。	・書かれている内容や文章の意味を理解し、文の中で正しく使うようにしていくために、短作文を取り入れ指導していく。 ・日常生活において、相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語をはじめ、丁寧な言い方などについて使い慣れるようにしていく。また、取り立てて再度指導し、理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	88.6	77.5	74.0
	農業や水産業	88.6	81.1	73.7
	工業生産	90.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	82.9	73.7	63.2
	日本の歴史	85.5	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	79.4	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	88.2	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	87.3	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

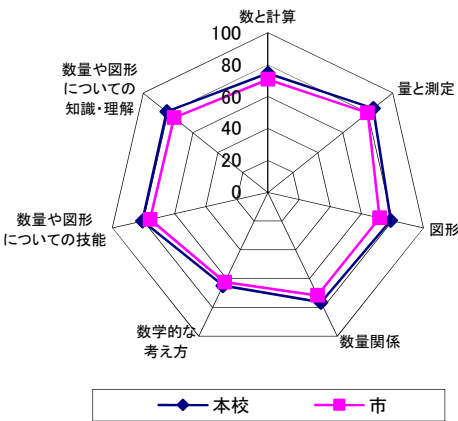
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○日本の周辺の海洋名を答える問題における正答率は100%で、市の平均を大きく上回っている。 ●日本の気候の様子について、説明にあてはまる雨温図や都市の位置を答える問題における正答率は、市の平均よりも高い数値を示しているものの、77.1%とやや低い数値である。	・新聞記事やテレビのニュースなどを紹介し、日本や周辺の国々にも関心を持たせていく。また、関連がある学習をした際には、他国の場所を地図で確認したり、日本と他国の気候を比べたりすることで、理解を深めていく。
農業や水産業	○米の生産が盛んな地域や農業で働く人々が抱える問題、日本の食料自給率について答える問題における正答率は、どれも90%を超えており、よく理解できている。 ●日本の食料生産が抱える課題について資料をもとに考える問題では、正答率が77.1%とやや低い。	・グラフや資料を見て、そこから分かることや考えられることなどをノートに記述させて話し合う活動を行ったり、授業で理解したことを短い字数でまとめさせたりするなどの言語活動の充実を引き続き行っていく。
工業生産	○平均正答率は90%で、市の平均を大きく上回っている。 ○工業地帯・工業地域の立地について、資料をもとに考えて答える問題では、正答率が91.4%で、よく理解できている。	・工業生産については、正答率が高く、よく理解できている。基本的な語句だけではなく、工業に携わる人々の努力や工夫について考えられるよう、意図的に学習を振り返る活動を設定し、さらなる習熟を図っていく。
情報産業や情報化社会	○医療現場での情報ネットワークの利便性について、資料をもとに考える問題では、正答率が88.6%で、市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●身の回りにあるメディアの共通の特徴について答える問題における正答率は、市の平均を上回ってはいるが、77.1%とやや低い。	・意図的に各情報メディアの特色について復習したり、メディアの情報を利用する際の注意点を確認し合ったりする。情報産業や情報化社会の中で生活している自分の問題として捉えられるようにしていく。
日本の歴史	○平均正答率は85.5%で、約15ポイント市の平均を上回っている。 ○伊能忠敬や日清・日露戦争、明治時代に国際社会で活躍した学者について資料から読み取る問題では、正答率が100%であった。 ●大和朝廷による国土の統一の様子について資料をもとに記述して答える問題の正答率は、市の平均よりも高いが、40%と低い数値である。	・写真や映像、実物などを見ながら、その時代の文化や背景を考えるような指導を継続して行っていく。また、文字数やキーワードを指定して考えをまとめるような言語活動の充実を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.6	70.8	65.9
	量と測定	84.3	79.9	77.0
	図形	78.9	71.8	74.6
	数量関係	76.5	71.7	73.4
観点別				
	数学的な考え方	65.0	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	80.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	81.1	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

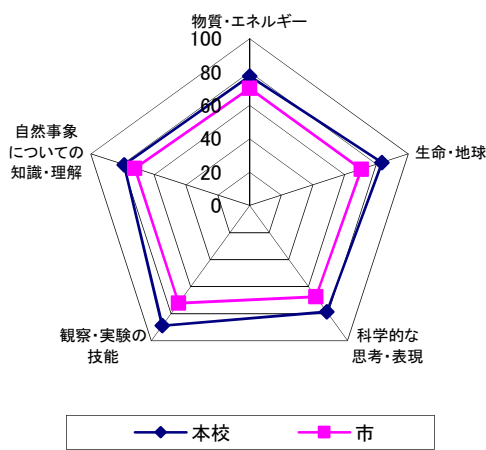
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数×整数(約分なし)の問題の正答率は100%で市の平均を大きく上回っている。 ○小数の計算や、整数のなかま分けの問題の正答率はどれも市の平均を上回っている。 ●図を見て、小数倍の文章問題を解くための乗法の式を選ぶ問題の正答率は市平均よりも4ポイント程度低い。 ●図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率は市平均より20ポイント低い。	・小数のかけ算、わり算や分数のかけ算、わり算などの基本的な計算問題をドリルや練習問題で繰り返していくようにしたい。 ・何倍かを求める問題や、比較量を求める問題など、図や数直線から答える問題での間違いがあるので、文章問題では図や数直線を書いて答えを求める習慣を付けさせたい。
量と測定	○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題の正答率は、市平均より8ポイント程度上回っている。 ○ひし形の面積を求める式についての問題の正答率は88.2%で、市平均を10%以上上回っている。 ●図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題の正答率は市平均より6ポイント程度低かった。	・混みぐあいの比べ方や表し方を、単位面積あたりや、1人あたりの大きさに着目して考えさせるようにする。 ・どちらかの数量をそろえた計算をしているのか、また計算した数値の大小が何を表しているのかを、数直線などを用いて繰り返し考えさせたい。
図形	○三角形の内角の和が180度であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題の正答率は85.3%で、市平均より16ポイント高い。 ○点対称な図形の対応する点についての問題では、正答率が97.1%で、よく理解できている。 ●合同な三角形を作図する問題の正答率は、市平均を4ポイント程度下回っている。	・作図に苦手意識を感じるので、朝の学習の時間などを利用して合同な図形や、線対称、点対称の作図の問題に取り組ませたい。
数量関係	○比例の関係をxとyを使って式に表す問題の正答率は97.1%で市平均を7ポイント上回っている。 ○2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は88.2%で、市平均を15ポイント以上上回っている。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題の正答率は、市平均を7ポイント程度下回った。	・文字を使った式は、中学校での文字と式、方程式の学習にも関係するので、継続して繰り返し練習問題やドリルなどに取り組ませたい。 ・簡単な数に置き換えて式に表してから、文字を使った式に直していくことで慣れていくようにさせたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.6	70.3	69.0
	生命・地球	83.4	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	78.7	67.5	66.4
	観察・実験の技能	88.9	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	79.1	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○空気中にある気体の体積の割合やろうそくが燃える前後の空気中の気体の変化、二酸化炭素と反応して白く濁る液体について答える問題では、正答率はどれも90%を超えており、よく理解できている。 ●食塩を溶かす前と後での重さを答える問題や溶けた物の取り出し方を答える問題における正答率が、市の平均よりも10ポイント以上低い。	・実験や観察をする際には、予想を立てさせ、何を求めるための実験を行うのか、そのための正確な手順などについてよく理解させてから行うようにする。また、苦手傾向のある単元や内容については、プリントで復習する時間を確保したり、関連する学習を行った際にもう一度確認したりすることで、定着を図っていく。
生命・地球	○平均正答率は83.4%で、市の平均よりも13ポイント高い。 ●血液を全身に送り出す心臓の働きについて答える問題や実験の結果とにおいから水溶液が何であるかを答える問題における正答率は、どちらも市の平均よりは高い数値であったが、約50%と低い数値を示している。	・引き続き、実験や観察をする際のポイントを明確にしながらかグループで協力して行えるようにする。また、脈と拍動のように違いが分かりづらいものや性質が似ている水溶液の仲間分けの仕方などについては、定期的にプリントで復習したり、授業中に振り返る時間を意図的に設定したりすることで、定着を図っていきたい。